

## 秀吉の京都改造　ー京都・伏見・淀ー

令和 8 年 7 月 25 日

公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所　渡邊都季哉

### 1. 秀吉と京都のかかわり

天正 10 年（1582）山崎の戦い、明智光秀撃破。同年の清洲会議により織田家中の領地再配分。秀吉は京を含む山城・河内を手に入れる。天正 10 年山崎城築城→天正 11 年賤ヶ岳の戦い→天正 11 年大坂城築城、天正 12 年山崎城廃城。

天正 12 年小牧長久手の戦い、秀吉は軍事で家康を圧倒できず。信長以来の軍事的征服による統一路線から、官位などによる権威による惣無事・臣従路線。

天正 13 年秀吉関白就任。天正 14 年聚楽第築城。

### 2. 京都　ー聚楽第・御土居・天正地割・御土居ー

#### A 聚楽第

秀吉は、京都における拠点として妙顕寺城を整備したが、天正 14 年（1586）、平安宮の故地に本格的な城郭である聚楽第を築城、石垣による堀と城壁、金箔瓦で飾る建物群、天守を有する巨大な城である。聚楽第は本丸、南二之丸、北之丸、西之丸の 4 つの曲輪で構成されている。『駒井日記』によると本丸と 4 つの曲輪の外周は合計 1031 間（2031m）。堀幅は 20 間（39m）、深さは 3 間（約 6m）。

秀次切腹後、「一字も残さず、基礎にいたるまで悉く毀たしめ」（『日本西教史』）と、徹底的な破却が行われた。発掘調査から得られる聚楽第に直接かかわるデータは多くはないが、1991 年の本丸東堀や 2021 年の南堀の発掘調査などを契機として徐々に明らかになりつつある。現存する地形や絵画資料なども含めた復元研究が行われ、数多くの復元案が提示されている。

また 2023 年度、聚楽第の南西部、南北方向の堀（西外堀）があると考えられている場所での調査が行われた。表面波探査などの調査研究では、西外堀の幅は約 40mと考えられていた。発掘調査では、幅約 12m、深さ約 3.0mの南北方向に続く素掘りの堀状遺構を検出した。検出した遺構を堀とすれば、堀は、想定されていたよりも狭い幅になる。聚楽第の調査で、堀の両肩口が一度に検出された唯一つの事例である。

●聚楽第行幸の意味：豊臣一門と従属大名における関係の確認。

#### Bー 1　天正地割

平安京以来の 120m四方に区画された街区の中間に、南北方向の道路を新設し、短冊状の区画に変更した。道路に面しない街区の中心部の土地利用の活性化を図った。

地子銭の免除→中世より続く土地所有関係の破壊

寺町・寺の内に寺院を再配置。内裏を修築し、周辺に公家屋敷を再配置

#### Bー 2　京中屋敷替え

大名屋敷地範囲内から出土する丸瓦は鉄線切り（コビキ B）が多いということを指摘、天正 19 年（1591）「京中屋敷替え」に伴って、大名屋敷地が形成。大名屋敷地範囲内から出土する丸瓦は鉄線切り（コビキ B）が多い（森島 2001）。

→天正地割による土地利用の活性化と身分別の居住区の形成。

#### C 御土居

天正 18 年（1589）に小田原征伐により後北条を滅亡させ、秀吉の天下統一は成る。続く天正 19 年、洛中を囲む土塁と堀を約 4 か月で造る。御土居の築造である。北は鷹峯から南は東寺まで、東は鴨川から西は紙屋川までの範囲を囲み、全長 22.5 kmに達する。『兼見卿記』には、「南表の普請には数万の人が工事をしている。」との記述があり、京都の有力寺社や諸大名に対して、大規模な動員をかけ数万人規模の人々が従事したと考えられる。

●御土居（洛中惣構）の規模と構造

御土居の調査はこれまでに 30 箇所以上になる。御土居の基本構造は、土塁・犬走・堀からなり、規模は、土塁の基底部で幅 17～20m、高さ約 5 m、犬走幅 1.3～4 m、堀幅 12.5～20m、深さ 1.5～4 mである。全体の規模は、これ以前の城郭や寺院の外郭施設と比べても隔絶しており、御土居（洛中惣構）が南北約 8 km、東西約 3 km、全長約 22.5 kmであるのに対し、山科本願寺跡は南北約 900m、東西 500m、全長約 3 km、神奈川県小田原城は 外郭（総構）は全長約 9 kmである。

●京の七口

御土居に設けられた洛中洛外への出入口の数は定かではないが、以下に想定できるものを記す。

伏見口・五条口（現在の五条通）、大原口（現在の今出川通）、

荒神口（北白川から山中越えに通じる街道の口）、鞍馬口（鞍馬街道／鞍馬口通）

栗田口・三条口（東海道・東山道）、東寺口（西国街道や鳥羽街道に通じる）

丹波口（現在の七条通で、西国街道に繋がる）、長坂口（周山街道）

なお、丹波口付近の発掘調査では、後北条氏の城郭でよく見られる障子堀（あるいは堀障子）が、御土居の堀として検出された。

洛中惣構とも京之惣廻土居とも呼ばれた御土居は、現在までその築造目的について、様々な解釈がなされている。御土居の築造が、聚楽第の築城、町割りや京中屋敷替え、寺町・寺之内の建設等の京都の都市再整備と連動していることは明らかである。

### 3. 淀・伏見

#### A 淀城

安土桃山時代の淀城は淀古城と呼ばれる。現在、京阪淀駅に近接する江戸時代の淀城跡の約 400m北方にあったとされている。発掘踏査では淀古城の遺構は見つかっていない。

淀古城は、聚楽第（京都）と大坂城（大坂）を結ぶ結節点に位置する。天正 12 年（1584）ごろから普請が始まり、天正 16 年頃から二ノ丸の拡張、この頃、豊臣秀長が城の普請を担当する。天正 17 年、淀殿が第一子（鶴松）を出産。文禄 3 年（1594）に破却。天守・櫓は伏見城に転用。

●近年の調査成果

淀水垂大下津町遺跡の発掘→15 世紀後半から活発な土地利用。城の外側の町や村の一部として機能していた可能性がある。

#### B 伏見城

##### Bー 1 指月伏見城

指月伏見城はもともと、豊臣秀吉が甥秀次に関白職と聚楽第を移譲後、伏見の地に隠居所として築いた屋敷である。秀頼が誕生した後、秀吉は隠居屋敷を本格的な城郭に改めることとなった。城は文禄 3 年（1594）に完成し、秀吉はここで政務を執るようになる。この時、宇治川を巨椋池から分離させて城の外堀とした。さら

に、大坂や大和と、伏見・京都を結ぶ交通路として宇治川沿いに港や堤（道路）を整備した。また、城の周囲には家臣の住む屋敷を構えさせることによって、伏見の地は指月伏見城を中心とした軍事・政治的都市となった。文禄4年（1595）秀次を自刃させると、秀次の居城である聚楽第の破却を命じる。聚楽第の建築資材は指月伏見城に再利用されたと言われている。

指月伏見城は、築城から文禄5年（1596）の慶長伏見地震による倒壊までの、わずか2年間しか存続していなかった。さらに、伏見山（木幡山）伏見城の築城に伴う大規模な造成により、指月伏見城の遺構は造成時の整地層下に埋没、あるいはそれより後の時代の削平によって失われている。

そのため、現在の地表面に指月伏見城の痕跡はほとんど残されておらず、場所や城郭の構造について不明な点が多い。しかし、これまでの発掘調査および表面波探査の成果から、指月伏見城は方形プランで3つの曲輪が連なっていた可能性が指摘されている。

●指月伏見城に伴う石垣、堀、礎石の発見（図9・10、写真4～6）

①堀と考えられる遺構を検出。石垣はなし。埋土から多量の金箔瓦等が出土。

②指月伏見城の何か？巨大な地下式礎石を検出。

#### B－2　伏見山（木幡山）伏見城

指月伏見城が慶長伏見地震で倒壊した後、秀吉は指月の北東にある伏見山（木幡山）に城の再建を命じ、慶長3年(1598)に死去するまでこの城で晩年を過ごした。秀吉没後は徳川家康が留守居役として伏見城に入城、慶長5年（1600）関ヶ原の戦いの前哨戦の舞台となる。城には家康の家臣である鳥居元忠が籠城していたが、西軍の攻撃を受けて落城、焼失した。関ヶ原の戦いに勝利した家康は、伏見城の再建に着手し、慶長8年(1603)に家康はここで征夷大將軍の宣下を受けた。慶長20年（1615）の大坂夏の陣で豊臣家が滅亡したこと、京都で二条城が造営・整備されたことによって徳川政権における伏見城の意義は失われ、元和9年（1623）に3代将軍家光の将軍宣下後、廃城となる。

伏見城の中枢部のほとんどが明治天皇陵の陵墓地となっていることから、普段は一般人の立ち入りができない。しかし大阪歴史学会が宮内庁の許可を受けて実施した調査により、レーザー測量調査で詳細な地形が明らかにされ（図 11）、立入調査によって石垣等遺構が良好に遺存していることが明らかとなった。また、2022年度には中枢部の発掘調査が行われ（図 12）、ここでも石垣が良好に遺存していることが明らかとなった。

### 4．京都新城―秀吉最後の城―

京都新城は、慶長2年(1597)に豊臣秀吉が内裏南東側に築いた城である。規模は南北6町（約 0.8km）、東西3町（約 0.4km）で、面積は京都御苑の約半分に相当する18町（約 3,2㎤）に及ぶ。秀吉の死去後の慶長4年(1599)からは高台院（おね・ねね・北政所）の屋敷となるも、翌年の関ヶ原の合戦の直前には、南面の門、内堀や石垣などが壊されている。寛永元年（1624）に高台院が死去した後、寛永4年に後水尾天皇の仙洞御所が造営され、京都新城は消滅する。

2019 年度発掘調査では、南北方向の堀と、その西端となる石垣を検出した。石垣の検出長は約8m、高さ1.0～1.6mである。石垣は、長さ 0.8～1.1mの石材を3～4段、野面積みで構築されている。上部は解体されており、本来はさらに2段程度の石が積み上げられていたと考えと、石垣上端から堀底までの復元高は約2.4mとなる。

さらに 2022 年試掘調査が行われ、2019 年調査の堀の南延長部とその東端となる石垣を検出した。石垣の検出長は約0.6m、高さ約0.7mである。石垣は、最大長約1.8mの石材を2段以上、野面積みで構築していた。2019 年度と 2022 年度の調査により、検出した南北方向の堀の幅は約11mと推定できる。

まとめ（図 15）

●京都

秀吉関白期：摂家（武家関白）拠点としての京都（聚楽第）、豊臣家の拠点として大坂（大阪城）。

秀吉太閤期：太閤秀吉の拠点としての伏見（伏見城）。秀次失脚後、聚楽第を破壊。秀頼が誕生したのちに京都新城を築城するが、利用は秀頼任官時など限定的。秀吉没後は高台院屋敷となる。

●淀

豊臣家の居城大坂と政庁としての京都聚楽第を結ぶ結節点。淀川流域の整備。

淀古城の破却→聚楽第（秀次）の孤立（中村 2019）

●伏見

秀吉の隠居場所としてスタートするも、秀頼誕生・秀次事件を経て、聚楽第の機能が移り、政権の場となる。秀吉没後は徳川家康が入城しており、家光の将軍宣下まで機能した。

参考文献

|                                                                         |
|-------------------------------------------------------------------------|
| 馬瀬智光 2021「城郭史における指月城の位置づけ」『指月城跡・伏見城跡　発掘調査総括報告書』京都市文化市民局                 |
| 大阪歴史学会 2022『伏見城跡立入調査報告』                                                 |
| 大西晃靖・興梠千春『伏見城跡・指月城跡発掘調査報告書』文化財サービス発掘調査報告書第 37 集　株式会社文化財サービス             |
| 尾下成敏・馬部隆弘・谷　徹也 2021「首都としての伏見」『戦国乱世の都』吉川弘文館                              |
| 河内正芳 2016『落日の豊臣政権　秀吉の憂鬱、不穏な京都』吉川弘文館                                     |
| 京都市文化財保護課 2023『聚楽第跡・平安宮跡の発掘調査　令和 5 年度記者発表資料』                            |
| 京都市埋蔵文化財研究所 2023『御土居跡発掘調査報道発表資料』                                        |
| 京都市埋蔵文化財研究所 2022『伏見城跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2021-9                          |
| 京都市文化市民局 2023「Ⅶ　伏見城跡」『京都市内発掘調査報告　令和 4 年度』                               |
| 京都市文化市民局 2026「Ⅵ　指月城跡, 伏見城跡」『京都市内発掘調査報告　令和 4 年度』                         |
| 京都市埋蔵文化財研究所『平安京左京一条四坊十町跡・公家町遺跡・京都新城跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2022-2           |
| 小林大祐 2022「伏見城下町と向島城」『令和 2 年度京都府域の文化資源に関する共同研究会報告書（伏見編）』京都府立京都学・歴彩館      |
| 谷　徹也 2018「伏見城は「木幡山」にあったのか」『日本歴史　847 号』日本歴史学会                            |
| 谷　徹也 2022「豊臣政権の拠点城郭と「首都」」『令和 2 年度京都府域の文化資源に関する共同研究会報告書（伏見編）』京都府立京都学・歴彩館 |
| 中井　均 2001「城郭史からみた聚楽第と伏見城」『豊臣秀吉と京都　聚楽第・御土居と伏見城』文理閣                       |
| 中井　均 2010「伏見城と豊臣・徳川初期の城郭構造」『ヒストリア　222 号』大阪歴史学会                          |
| 中村博司 2019『豊臣政権の形成過程と大坂城』日本史研究叢刊 34　和泉書院                                 |
| 福島克彦 2010「伏見城の機能とその破却について」『ヒストリア　222 号』大阪歴史学会                           |
| 森島康雄 2001「聚楽第と城下町」『豊臣秀吉と京都　聚楽第・御土居と伏見城』文理閣                              |
| 森島康雄 2010「それでも指月伏見城はあった」『京都府埋蔵文化財論集　第 6 集』京都府埋蔵文化財調査研究センター              |
| 森島康雄 2020「伏見城城下町と伏見時代」『伏見城研究会　発表資料』                                     |
| 山田邦和 2001「伏見城とその城下町の復元」『豊臣秀吉と京都　聚楽第・御土居と伏見城』文理閣 1                       |
| 山田邦和 2010「伏見城・城下町の研究史と陵墓問題」『ヒストリア　222 号』大阪歴史学会                          |
| 横田冬彦 2001「豊臣政権と首都」『豊臣秀吉と京都　聚楽第・御土居と伏見城』文理閣                              |



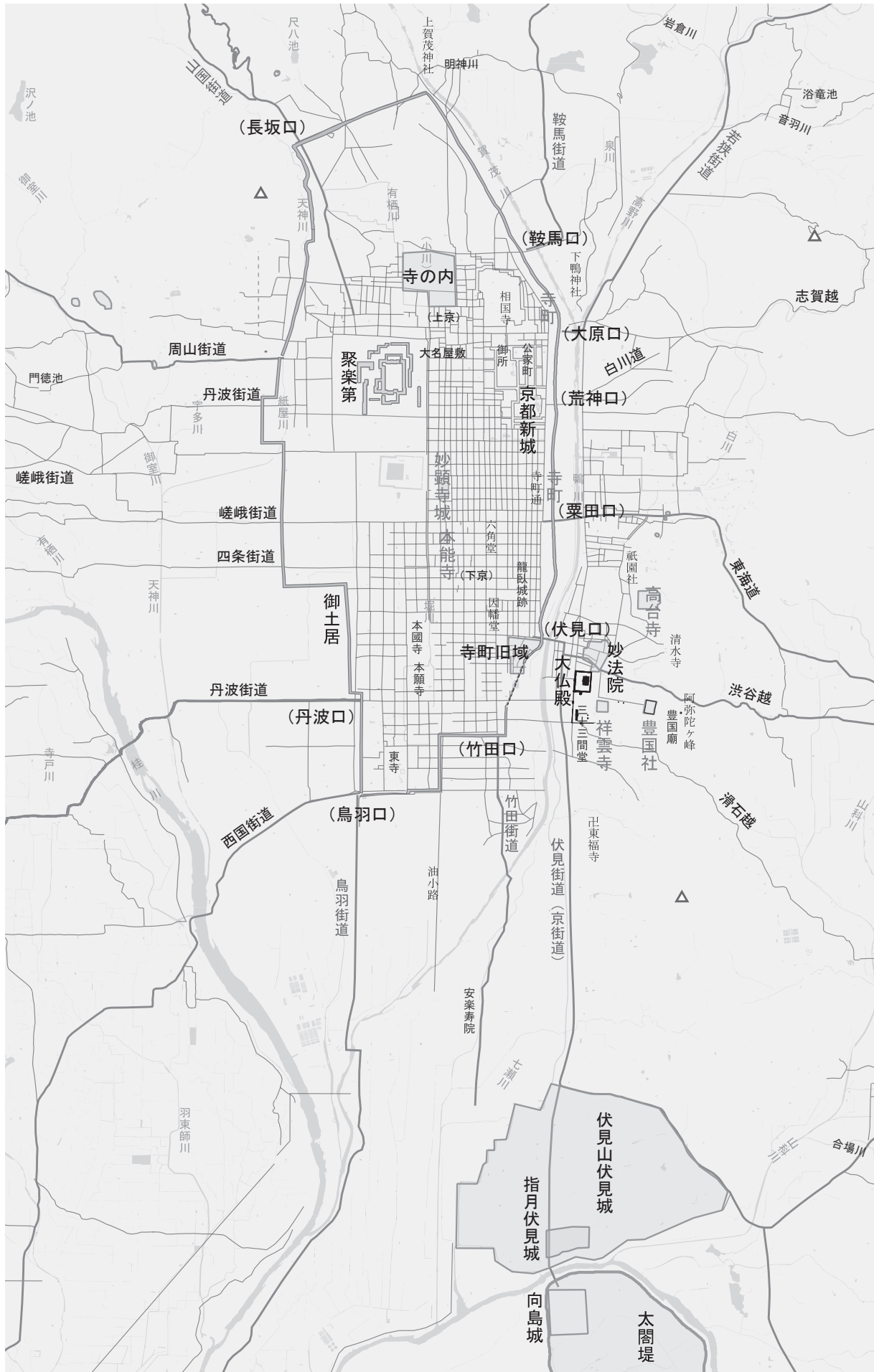


図1 安土・桃山時代の京都 (「安土・桃山時代」『平安京百景 京都市平安京創生館展示図録』を調整)

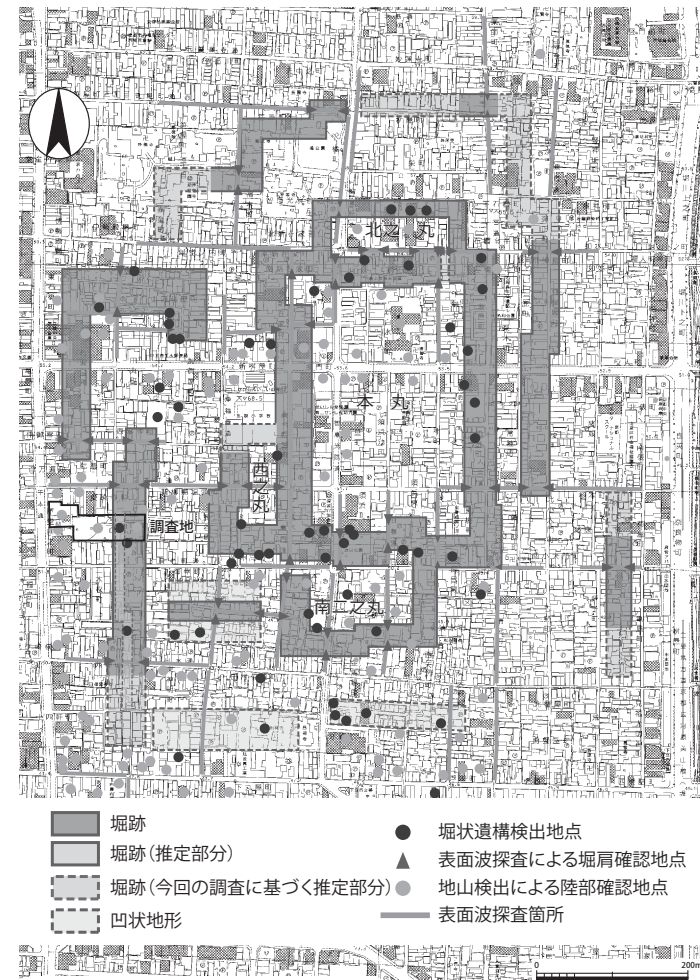


図2 聚楽第の表面波探査による復元案と2023年度調査地位置図 (1:10,000) (京都市文化財保護課2023を一部改変)

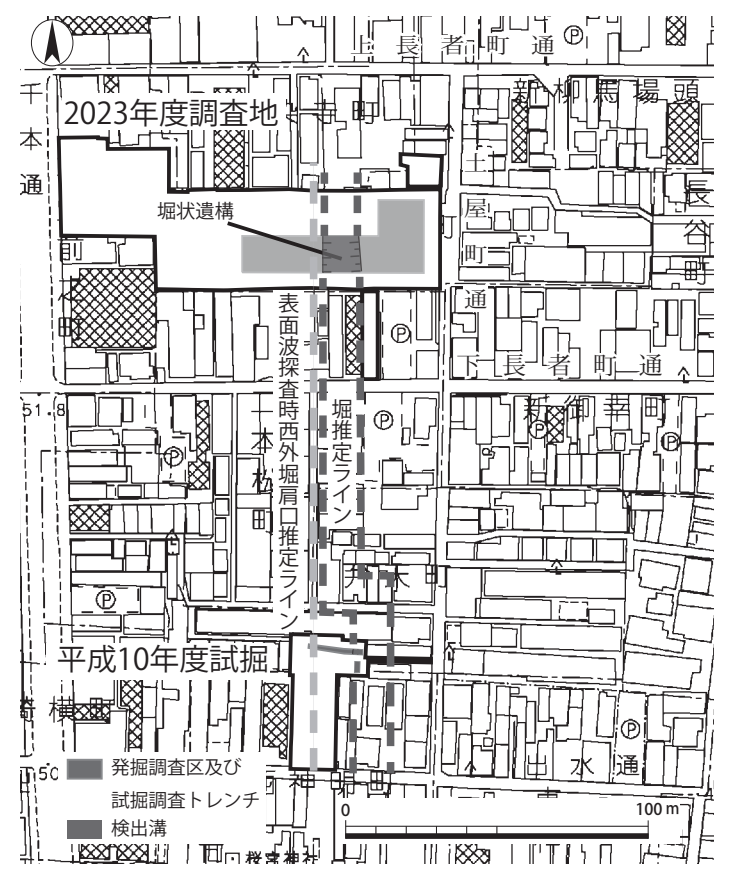


図3 2023年度調査と堀状遺構位置関係図(1:2,500) (京都市文化財保護課2023を一部改変)

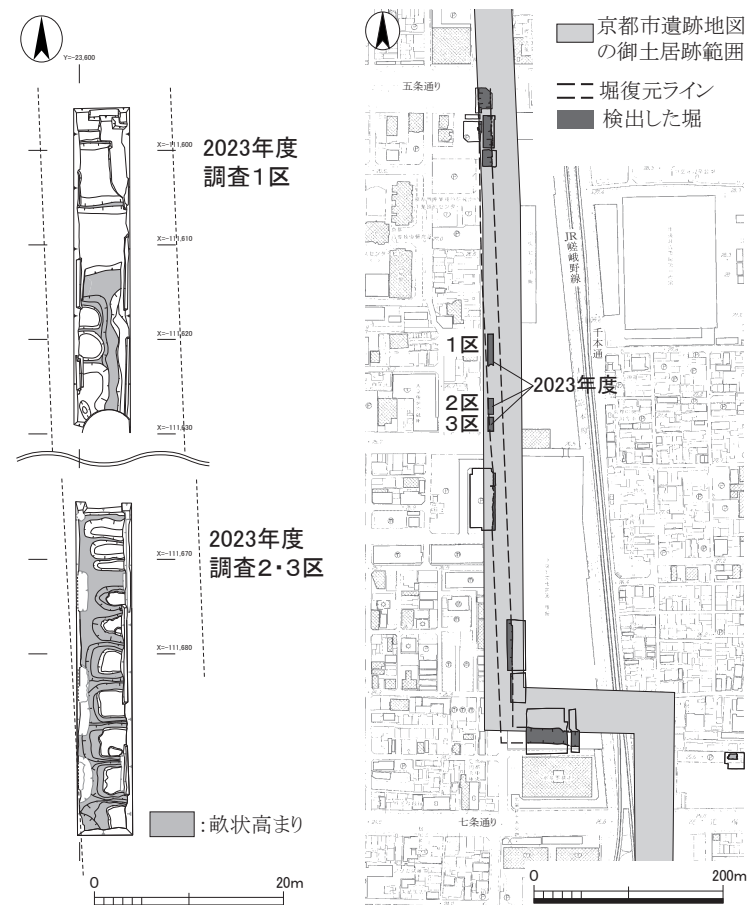


図4 2023年度調査における堀の畝状高まり(1:800)

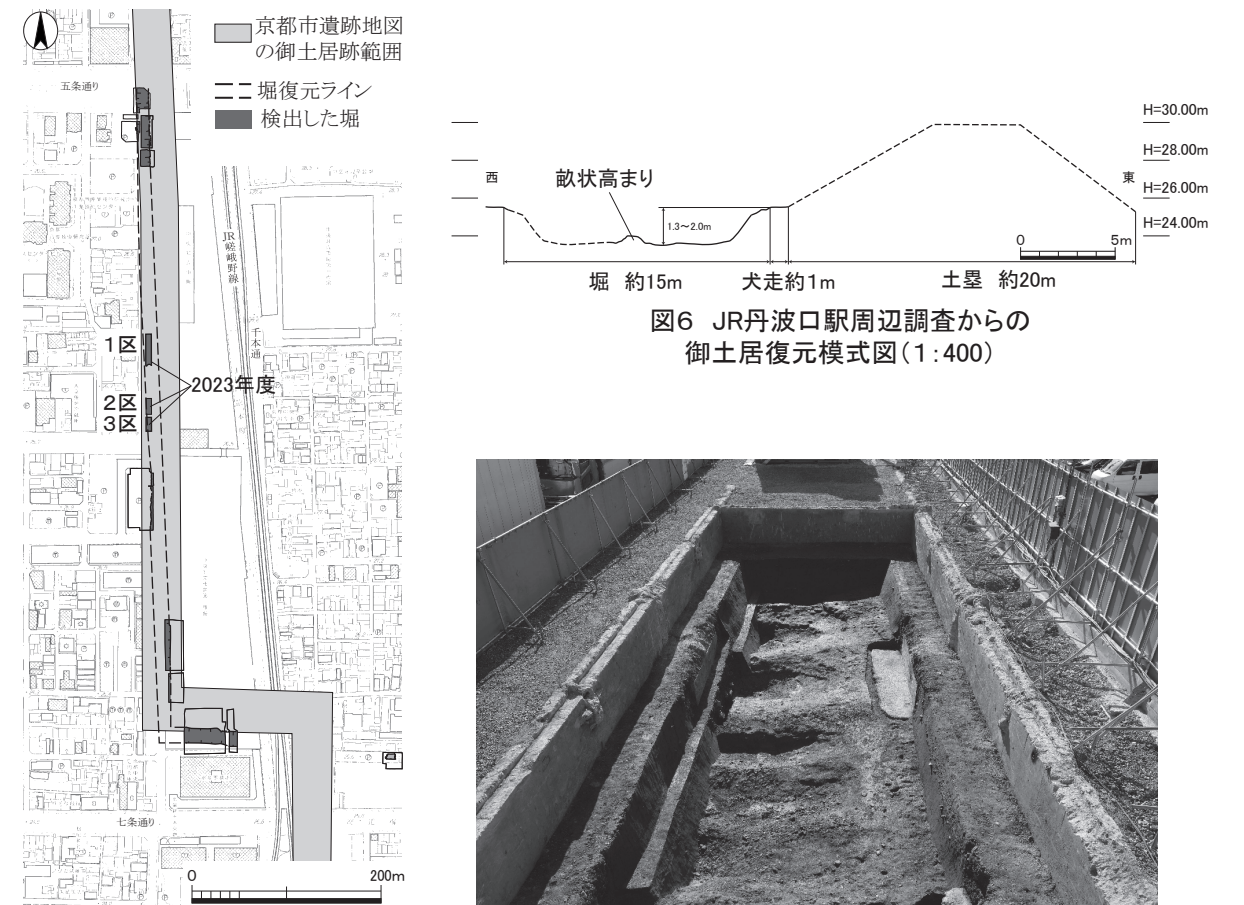


図5 JR丹波口駅周辺の御土居堀復元ライン(1:8,000)

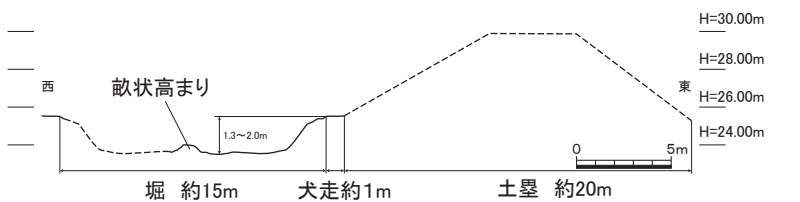


図6 JR丹波口駅周辺調査からの御土居復元模式図(1:400)



写真1 2023年度調査 1区堀(北から)



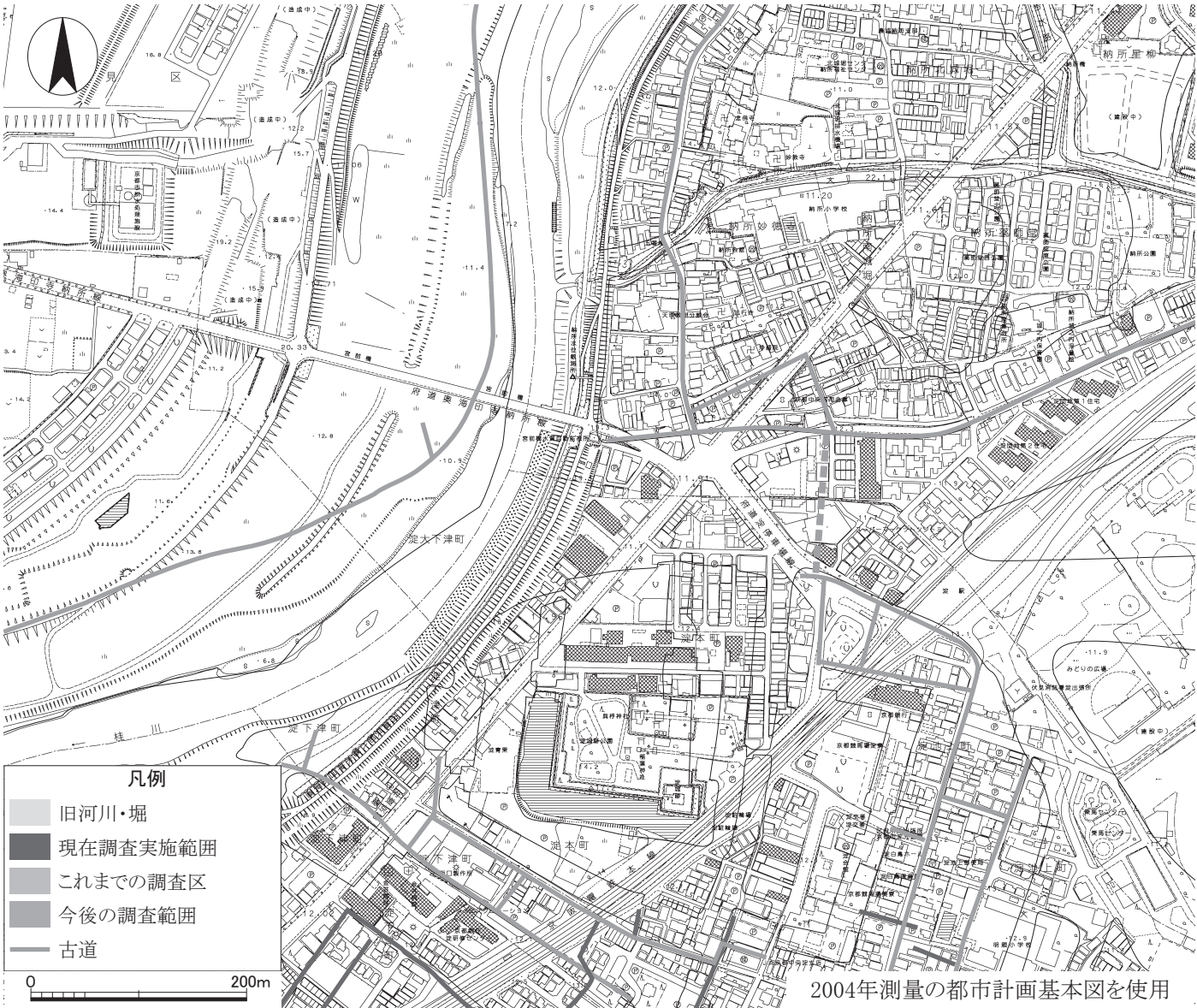


図7 淀水垂大下津遺跡調査位置図(1:5,000)

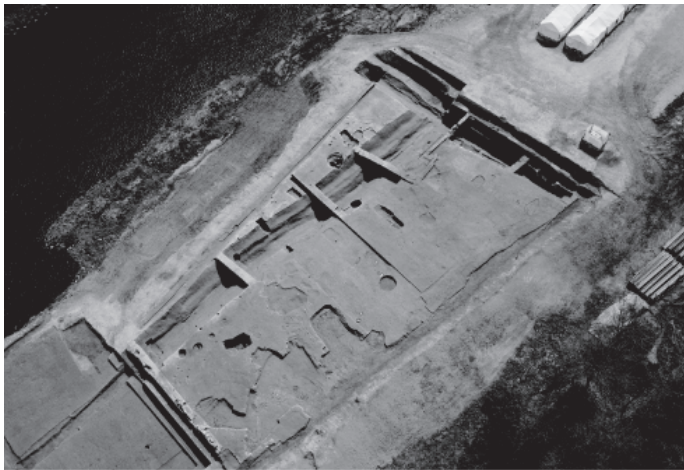


写真2 淀水垂大下津遺跡9区堀状遺構(北西から)



写真3 淀水垂大下津遺跡9区堀状遺構断面(北から)

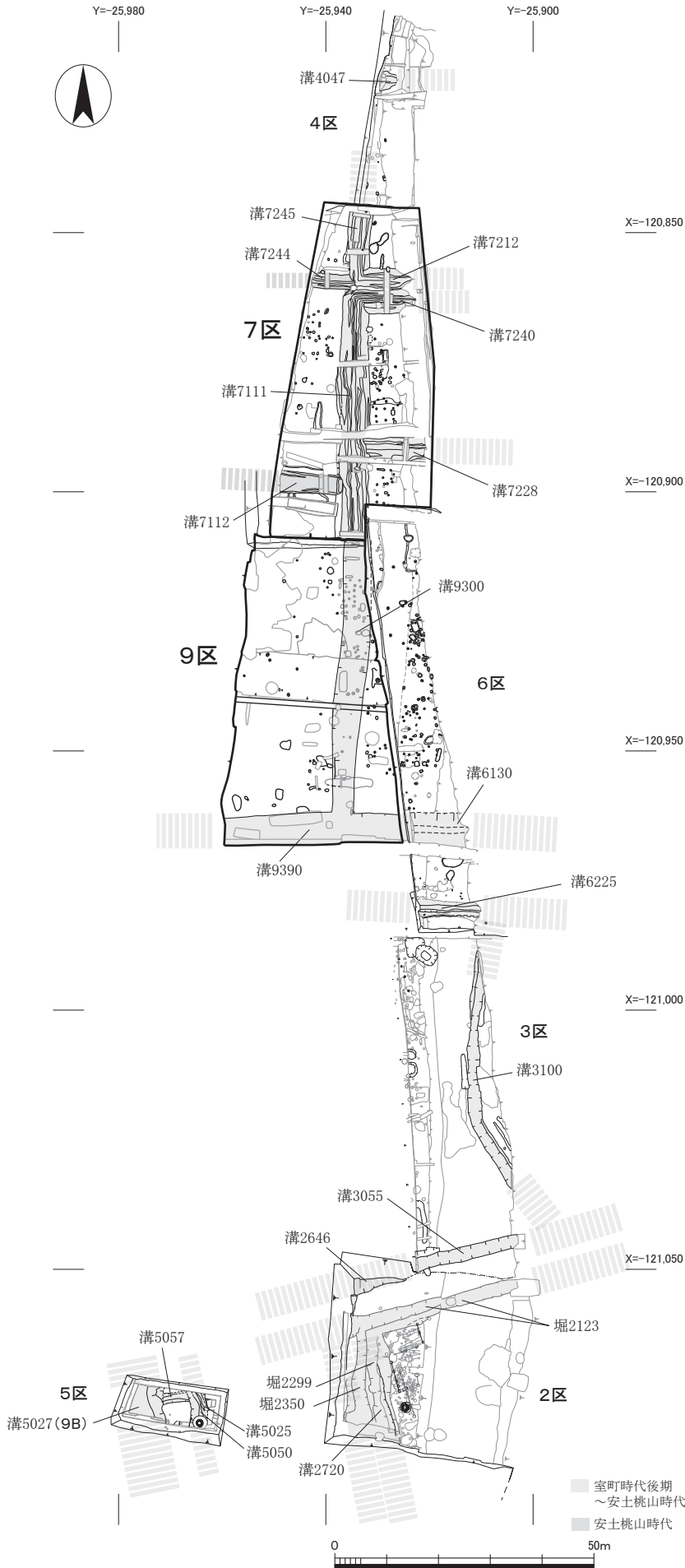


図8 淀水垂大下津遺跡堀状遺構図(室町時代後期から安土桃山時代、1:1,200)



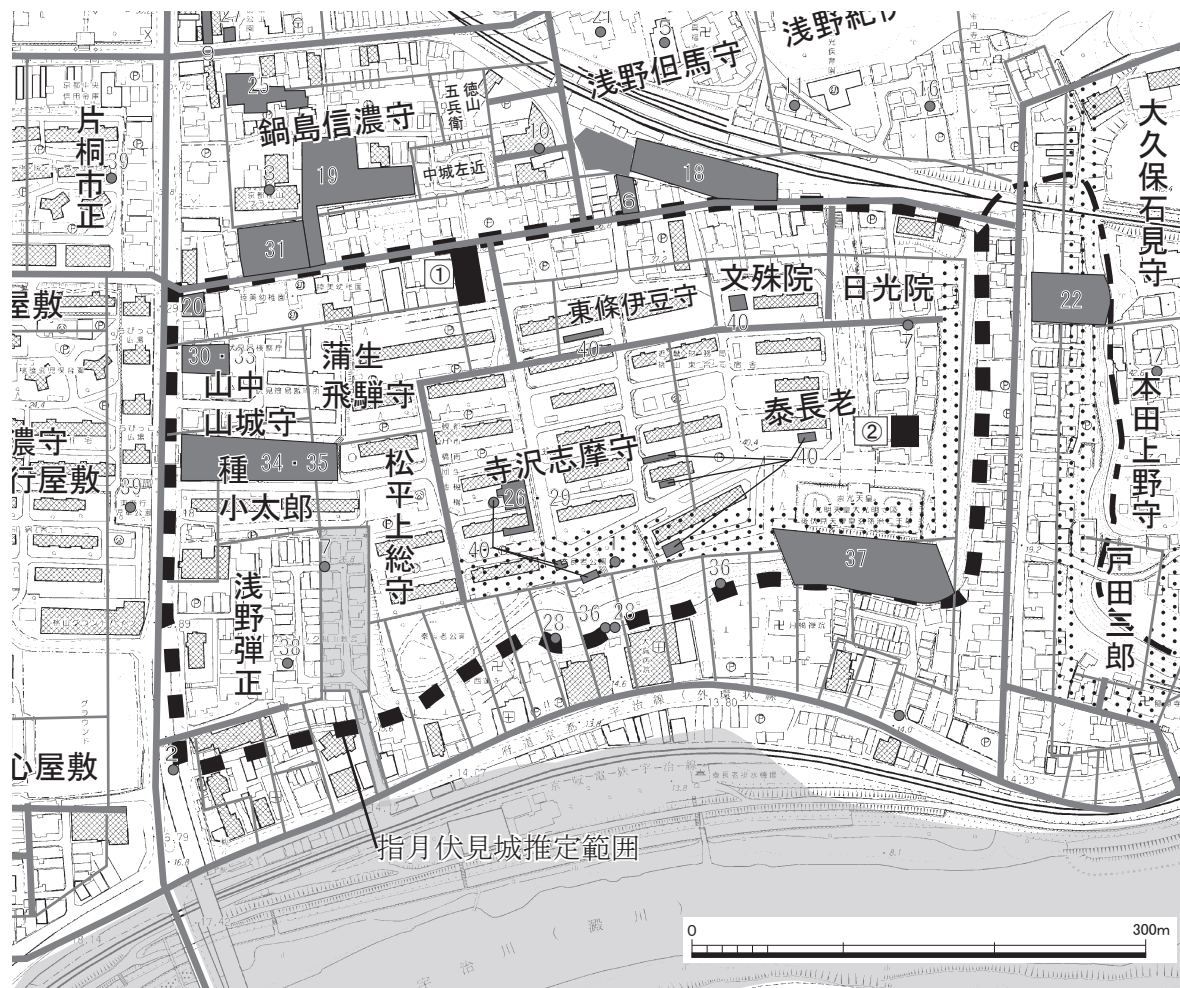


図9 指月伏見城調査位置図(1:5,000)

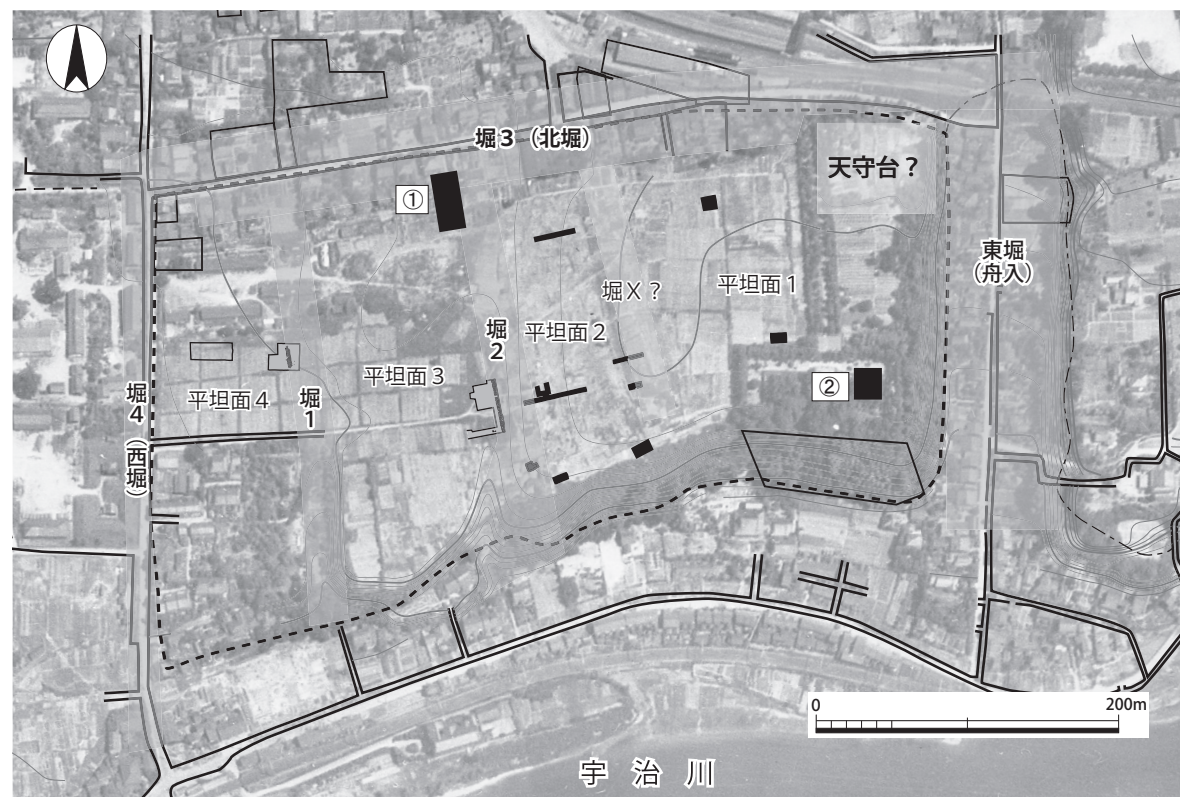


図10 発掘調査と表面波探査から復元される指月伏見城範囲(京都市保護課2021を一部改変)

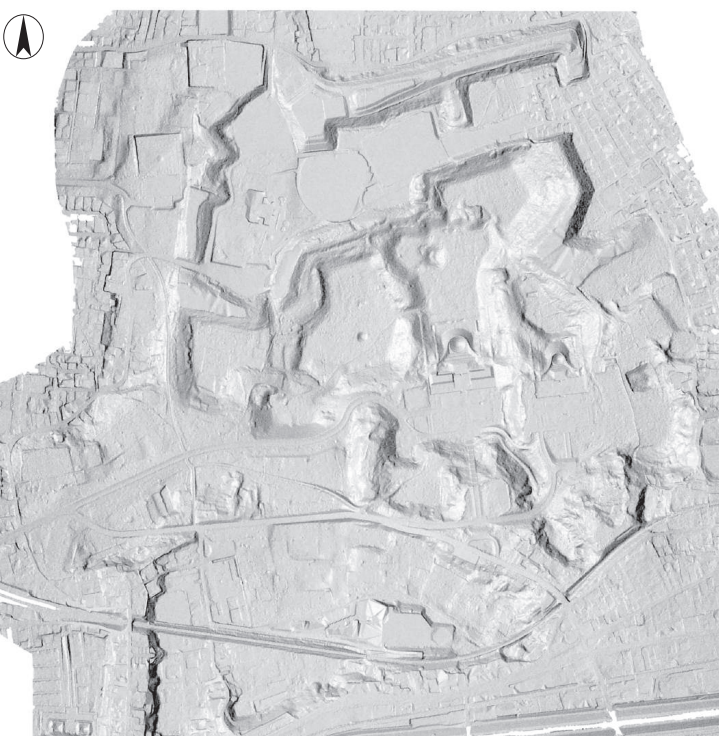


図11 伏見山(木幡山)伏見城中枢域レーザー測量図(大阪歴史学会2022より転載)(1:15,000)

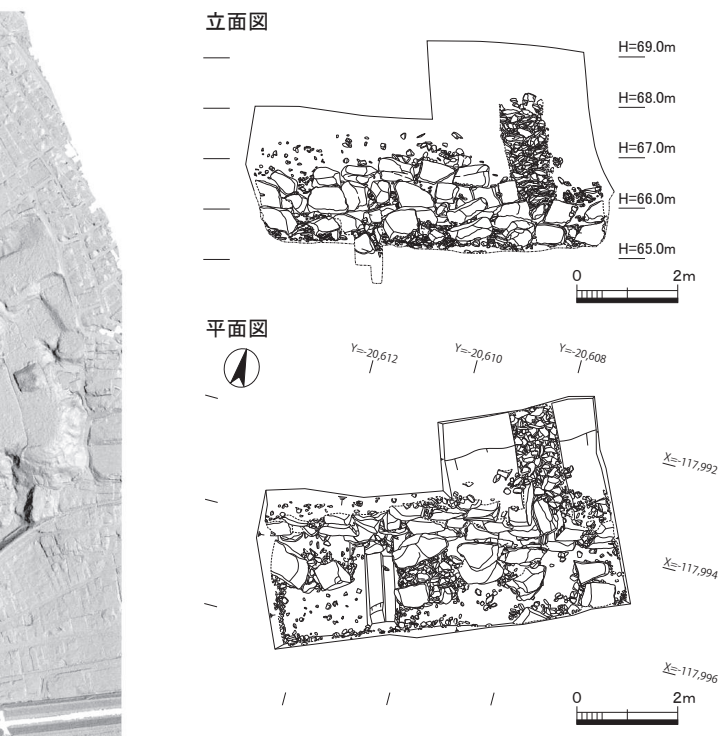


図12 2022年度検出石垣平面・立面図(京都市文化財保護課2023より転載)(1:150)



写真4 ①指月伏見城堀(文化財サービス2026より転載)



写真5 ①「国土安穩(天)下太平 口正八年 山口作」銘軒丸瓦(文化財サービス2026より転載)



写真6 ②指月伏見城期礎石(京都市文化財保護課2026より転載)



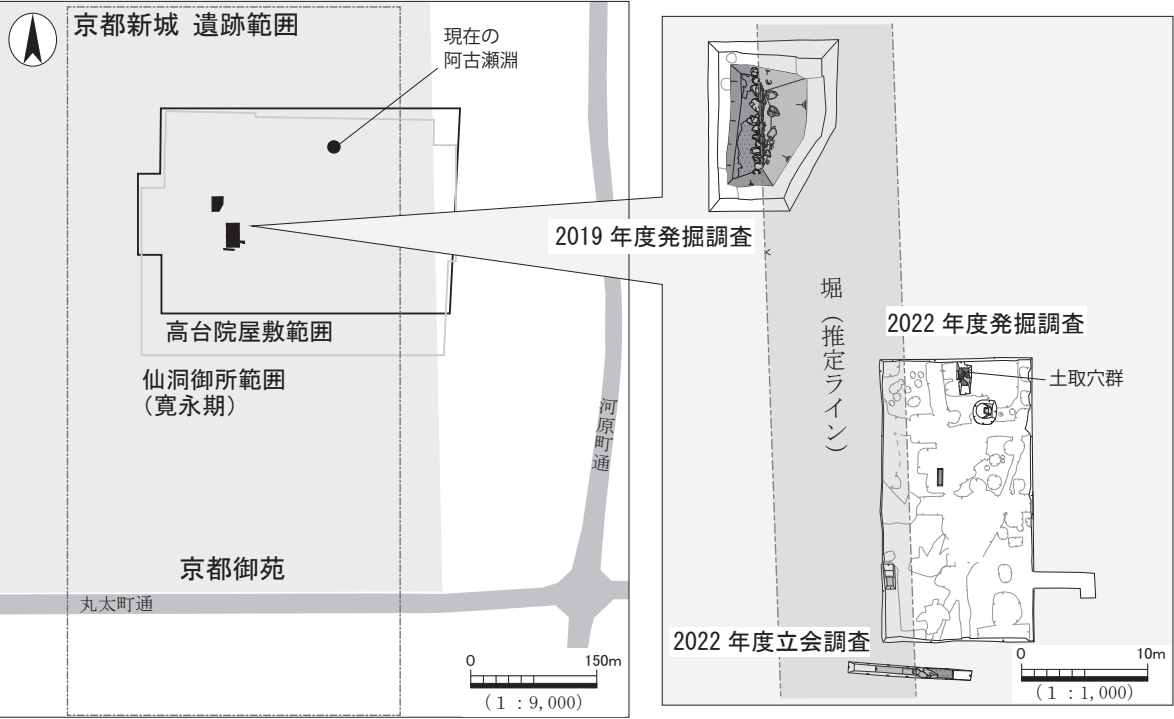


図13 京都新城跡調査位置図

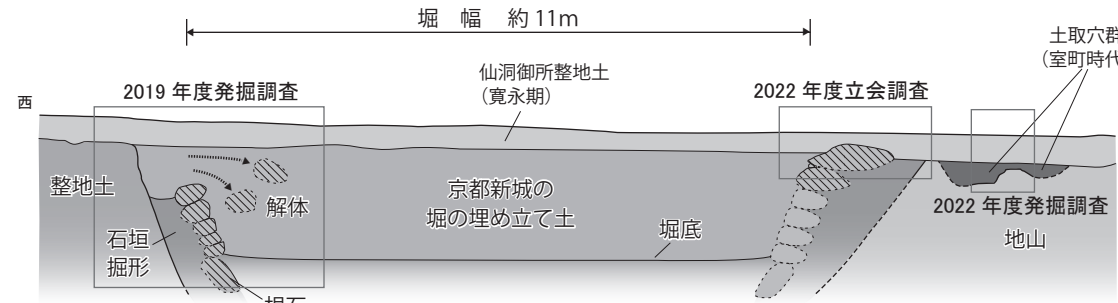


図14 京都新城堀の埋没過程模式図

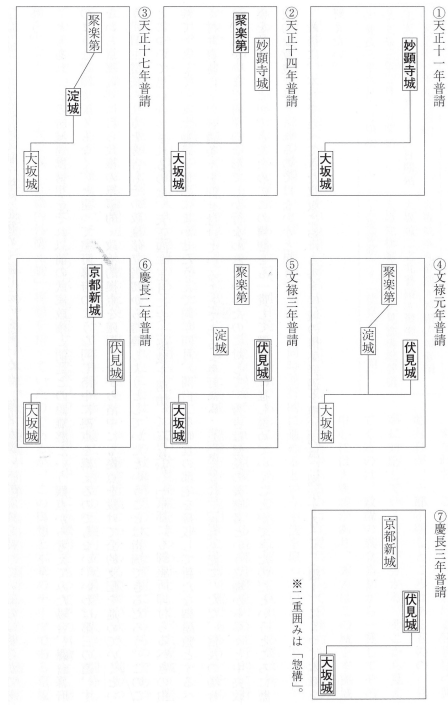


図15 秀吉の京坂での居城構築経過の概念図(中村2019より転載)

| 和暦          | 西暦   | 京都(洛中)     | 伏見・淀                         | 大坂城       | 豊臣氏関係                  |
|-------------|------|------------|------------------------------|-----------|------------------------|
| 天正10年       | 1582 |            | 山崎城築城                        |           | 本能寺の変・山崎の戦い・清須会議       |
| 天正11年       | 1583 | 妙顕寺城普請     |                              | 本丸普請      | 賤ヶ岳の戦い                 |
| 天正12年       | 1584 |            | 山崎城天守破却                      |           | 小牧・長久手の戦い              |
| 天正13年       | 1585 |            |                              |           | 紀州征伐・四国征伐・越中征伐、秀吉関白任官  |
| 天正14年       | 1586 | 聚楽第普請      |                              | 二の丸普請     | 豊臣氏を賜る                 |
| 天正15年       | 1587 |            |                              |           | 九州征伐、伴天連追放令、北野大茶会      |
| 天正16年       | 1588 | 後陽成天皇聚楽第行幸 | 秀長が淀古城普請                     |           | 刀狩令、海賊停止令              |
| 天正17年       | 1589 | 天正地割実施     | 淀古城で茶々(淀殿)鶴松出産               |           |                        |
| 天正18年       | 1590 |            |                              |           | 小田原征伐・奥州仕置             |
| 天正19年       | 1591 | 御土居築造      |                              |           | 秀長死去、鶴松死去、千利休自害、秀次関白任官 |
| 天正20年(文禄元年) | 1592 |            | 指月に隠居屋敷造営(伏見城1期)             |           | 文禄の役                   |
| 文禄2年        | 1593 |            |                              |           | 秀頼誕生                   |
| 文禄3年        | 1594 |            | 淀古城破却、指月伏見城普請(伏見城2期)、伏見惣構堀普請 | 惣構堀普請     |                        |
| 文禄4年        | 1595 | 聚楽第破却      |                              |           | 秀次自害、秀保死去              |
| 文禄5年(慶長元年)  | 1596 |            | 指月伏見城倒壊、伏見城再建(伏見城3期)         |           | 慶長大地震                  |
| 慶長2年        | 1597 | 京都新城築城     |                              |           | 慶長の役                   |
| 慶長3年        | 1598 |            |                              | 普請、大名屋敷造成 | 醍醐花見、秀吉死去              |
| 慶長4年        | 1599 |            |                              | 堀普請       |                        |
| 慶長5年        | 1600 |            | 伏見城落城                        | 城普請       | 関ヶ原合戦                  |
| 慶長6年        | 1601 | 二条城普請      |                              |           |                        |
| 慶長7年        | 1602 |            | 伏見城再建(伏見城4期)                 |           |                        |
| 慶長8年        | 1603 |            | 伏見城で將軍宣下(徳川家康)               |           |                        |
| 慶長9年        | 1604 |            |                              |           |                        |
| 慶長10年       | 1605 |            | 伏見城で將軍宣下(徳川秀忠)               |           |                        |
| 慶長11年       | 1606 |            |                              |           |                        |
| 慶長12年       | 1607 |            |                              |           |                        |
| 慶長13年       | 1608 |            |                              |           |                        |
| 慶長14年       | 1609 |            |                              |           |                        |
| 慶長15年       | 1610 |            |                              |           |                        |
| 慶長16年       | 1611 |            |                              |           |                        |
| 慶長17年       | 1612 |            |                              |           |                        |
| 慶長18年       | 1613 |            |                              |           |                        |
| 慶長19年       | 1614 |            |                              |           | 大坂冬の陣                  |
| 慶長20年(元和元年) | 1615 |            |                              |           | 大坂夏の陣                  |
| 元和2年        | 1616 |            |                              |           | 家康死去                   |
| 元和3年        | 1617 |            |                              |           |                        |
| 元和4年        | 1618 |            |                              |           |                        |
| 元和5年        | 1619 |            | 伏見城の廃城が決定                    |           |                        |
| 元和6年        | 1620 |            |                              |           |                        |
| 元和7年        | 1621 |            |                              |           |                        |
| 元和8年        | 1622 |            |                              |           |                        |
| 元和9年        | 1623 |            | 伏見城で將軍宣下(徳川家光)               |           |                        |
| 元和10年       | 1624 |            |                              |           |                        |

図16 秀吉の京坂での居城構築経過の概念図(中村2019第2部表2を元に作成)

